

114  
A 4428



紙故上仕候然、這回「カピ  
子ボウル船」アルモサ江  
到着致候ヨリ

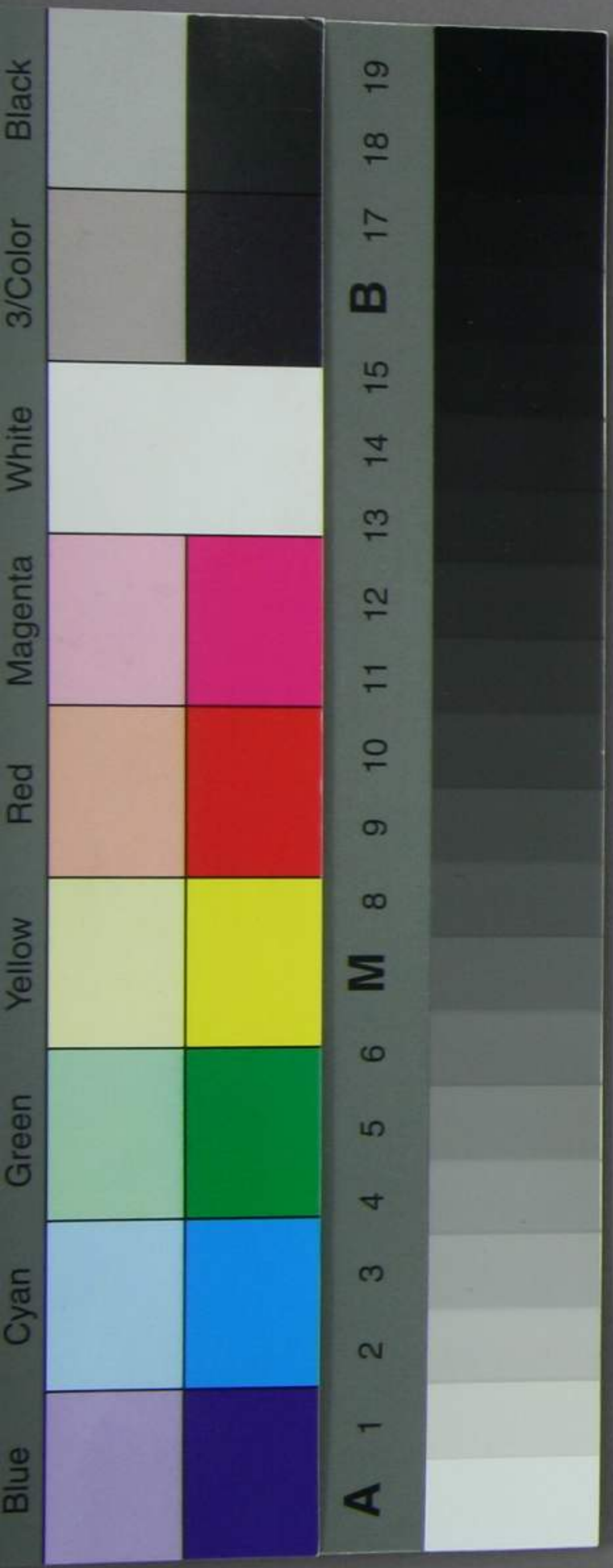
大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

五月廿六日「デル」船出帆、時、至ル迄「アル」  
モサ南方ニ於ケル諸事件ヲ委細書状二通ニ書  
認ノ私方江差送り申候處右、頗ル重大ノ者ト  
被存候間二通共寫取り閣下江差進申候尤モ右  
書状、全ク私書ニ御坐候ニ付何卒閣下ノ為ノ  
御用立申度ト、奉存候得共公ケノ書類中ニ御  
書入ノ儀、御差留被下度偏ニ奉願候謹言

六月十七日

138

A 4428



チヤールレス、レゼンドル

大隈重信閣下

寫書

五月廿四日「リアジキア」陣營ニ於テ認  
之

貴下ノ石筆ニテ記セル短書及ヒ「ゼ」子「ラール」西  
郷へ出セル覺書ノ寫並ニ「ピ」ラムニ付テノ指令  
書ト予カ書状トノ入りタル一封ヲ十分時程以  
前ニ落手シタリ然ルニ當時折要<sup>ニ</sup>シク「子」ポウル  
船一<sup>丁</sup>度港口ヲ出航スルニ方リ其船便ヲ以テ答  
書ヲ差出ス能ハス借<sup>レ</sup>ズ「子」ラール西郷ハ一日  
「ル」タ船及ヒ「シ」ヤ「ア」テ「ス」バリ「ル」船ト共ニ到着

其小船ヨリ直ニ予カ帳幕ニ來リシカ其荷物  
ヲ陸揚セシハ漸ク只今ナルニ目リ之レカ為メ  
貴下ノ送り給ヘル一封モ予ニ届ク一遅延シタ  
ルナル可シ目テ予ハ種々ノ事件ヲ記セシ報告  
書ヲ子ポウル船ノ便ヲ以テ貴下ニ呈スル能ハ  
サルハ甚ク残念ナリト雖モテル夕船明後日出  
帆ス可キヲ以テ此船ハ子ポウル船ヨリモ多ク  
後ル、一ナキヲ望ム所ナリ  
抑先ッ予カ自カラ行フタル諸事及ヒ其他今ニ  
至ル迄成就シタル諸件ヲ簡畧ニシテ貴脱ナク

陳述スルニ其第一ハ福島氏ハ之ヲ遇スル甚ク  
難ク實ニ同氏ハ其權ヲ取ル大ナルニ過キテ予  
幸ウシテ我カ受ケシ指令ノ旨ヲ執行フヲ得タ  
ル事ナリ故ニ予ハ以後如何ナル有様ニ於テモ  
同氏ト共ニ決シテ何事ヲモ為ヌヲ承諾セスト  
言フ可シ  
予ハ去ル六日ノ夕厦門ヨリ當地ニ到着シ曉ニ  
至リ「ジョソシ」陸ニ送リテ「ア」及ヒ「キ」  
ノ二人ニ通信マシ處西人共貴下ヨリノ使者面  
會シタキ趣ヲ聞キテ直チニ船中ニ來レリ目テ

予ハ予カ受ケシ指令ノ要旨ヲ兩人ニ通セシニ  
兩人共大ニ之ヲ感シ其意頗リ予ヲ助ケント  
スルカ如ク殊ニ兩人共早速予ヲ求メニ應シテ  
道案内者タル可キヲ義諾セリ然ル後予「ワツ  
ソ」及ビ福島並ニ其他士官兩三輩ト共ニ上陸  
シ終日地勢ヲ檢視セシ後予陣營ノ為メノ塲所  
ヲ撰ニ定メ翌日其餘ノ人数及ビ「カ」トリン砲  
ヲ上陸セシメ其後常ニ帳幕ヲ張リテ其塲所ニ  
居リシカ蓋シ此塲所ハ「ミ」アノ村落所在ノ河岸  
ヨリ更ニ北ニ方リ而メ此塲所ハ戰鬥ノ初マ

後分此地ニ遺シ置カレ可キ少人数ノ據有スル  
ニハ廣大ニ過クルカ故ニ港口ノ著名ナル標物  
タル頂上ニ平タキ小山ヨリ南西ニ於テ更ニ他  
ノ陣營ノ地ヲ撰ニ成ル可キ尤速カニ之ニ據ラ  
ントス又予ハ初メテ上陸セシ時ヨリ谷中ノ人  
民ト交誼ヲ結フニ盡カセシカ予カ盡カ頗ル其  
功ヲ奏シタリト言フ可シ今試ニ其証ヲ舉ク  
ルニ頃日「ホ」ンツン人ト小鬪ノ節我兵士ヲ前面  
ニ進マシメシ時谷中ノ人民忽チ其兵器ヲ携ヘ  
來リ其有様實ニ我ニ與シテ戰ハントスルカ

如ク又或時我堡障ニ造ルニ方リ谷中ノ人民來  
テ之ニ助カスル者五百人ニ降ラス蓋シ此等ノ  
事情ハ貴下ノ自カラ善ク判断シ給フ可キ所ナ  
リ抑予ハ谷中ノ人民ニ語ルニ我等ハ彼等ノ友  
ニシテ彼等ノ財産、眷族、生命ヲ安全ナラシムル  
為メ法ヲ立テ政ヲ設クルノ目的ヲ以テ此地ニ  
來リ且我等ハ生蕃ヲ抑制シ已ムヲ得サレハ此  
地面上ヨリ全ク此生蕃ヲ薙リ盡ス可キカ故ニ  
彼等谷中ノ人民我カ味方トナラハ土地ト財貨  
トヲ以テ之ニ酬ユ可ク加之各男女小兒ニ至ル

迄其權利ノ安全ナルヲ我等中ノ最高貴ナル人  
ト敢テ異ナラサルノ利益アル可キ旨ヲ以テセ  
シニ彼等甚タ之ヲ歡ヒ且ツ其他之ニ類スル言  
ヲ彼等ノ中ニ流布セシメ並ニ予ハ此等ノ諸事  
ヲ貴下ノ指令ニ回テ告知スル旨ヲ彼等ニ保証  
シタルハ予思ヘラク此地ノ人民ハ速カニ我カ  
味方トナルニ相違アルトナシ又我等ノ據有セ  
シ土地ハ必ス其代價ヲ拂ヒ且ツ如何ニ少許ノ  
勞功ト雖モ一トニシテ之レカ報酬ヲ為サハル者  
ナシ

去ル十日アドミラルル赤松日新艦ニ乗リテ到  
着ニ又其後尙モナク運送船二艘到着シタルニ  
目リ我人数増シテ五百人許ニ及ヘリ此時予貴  
下ノ明友タルエスツクノ紹介ニ目リ南方ノ人  
種ト通信ノ道ヲ開カント欲セシカ蓋シ此人ハ  
トケトクノ死去以來其後嗣タル同人ノ男ノ幼  
年ナル間首長ノ名義ヲ有スル者タリト見エ楮  
又土人等ハ我等ヲ畏懼スルヲ實ニ甚シク予  
漸クニシテ<sup>ニ</sup>アノ紹介ヲ以テ右エスツクニ音  
信ヲ通スルヲ得タリ而シテ其通信ノ音ヲ言フ

ニ予ハ貴下ヨリ同人ヘノ書信ヲ持參シ貴下ハ  
其明友タル南方人種ノ居間者若クハ其保護人  
トナル為メ間モナク此地ニ着ヌ可ク且ツ予ハ  
彼<sup>エ</sup>スツク<sup>レ</sup>ニ面會シテ我等カ彼レニ對スル親  
睦ノ意ヲ表シ支那ノ奸商等ノ彼レニ告ケシ由  
ヲ<sup>ニ</sup>評判アル日本人ハ大ナル孔ヲ穿テシ耳ヲ持  
テ我等ト彼レト相親ムヲ妨グル為メ之ヲ作リ  
タル昔ヲ予自カラ彼レニ語ラント欲スル等ノ  
諸事ナリ楮此通信終ニ彼レニ達セシカ彼レヨ

リ之ニ答ヘテ曰ク其音信ノ告ハ頗ル喜ハシキ  
所ニシテ速カニ來リテ予ニ面會セント欲スレ  
ル兵士ノ数甚タ多キニ目リ其中ニ來ルハ頗ル  
虞慮アリテ若シ予彼レカ村落ニ最近ナル雜人  
種ノ一村落ニ至ラハ彼レ他ノ首長等ト共ニ予  
ニ面會ス可ク然ラハ安ンシテ互ニ談話ヲ為ス  
ヲ得可シト而シテ予其事ハ余輩ノツメニモ都合  
ヨキ趣キテ言送レリ但シ予ヨリ彼レニ行クニ  
護送兵ナク且ツ武器ニシテ十分彼レヲ知ル  
トテ明カスニアラサレバ彼モ亦十分ニ我レヲ

信セサル様子ナルヲ甚ク悲ミタリ借テ其翌日  
ニハ將軍シイニ「ル海軍總督赤松マツツン及  
シ余輩出張シテ名指ノ村落ニ到着シテ最美ナ  
ル家ニ案内ナレ程ナクカノ名高キエシエツク  
現ハレ出テタリ然ルニ隨從ノ者ハ只三首長ニ  
アラズシテ四五十人以上ノ生キ鬼トモ見ユル  
兇悪ナル者アリ地中ヨリ突然ト現ハレ出テタ  
ルカト疑ハレタリ而シテ其步扨ヲ見ルニ齒ニ  
至ルマテ軍装ニテ我等ハ恰クモ係蹄ノ中ニ陷  
リタルカ如クナレバ互ニ三セコソドノ間ハ我カ

ウキレチエタトル 銃砲ノ名ニ指ヲカケテ離サ  
ズ是ハモト我ノ忠実ナル案内者シヤカ所持シ  
タルモノナリ然レモ予ハ氣ヲ喪フ事ナク平氣  
ニテ其場ニアリタリ借エシエツクニ回セテ予  
ハ書状ヲ持チ来レル者ナルヲ話シケレハ遂ニ  
坐ニ就キタリ又程ナクトケトツクノ子ニシテ  
当時病卧セル第三酋長アリラツクノ兄弟ナル  
十六才バカリノ容顏美艷ナル者入り来リテ談  
話ヲ初メテ予先キニ文通ニテ申送りシ事ヲ合  
皆之ニ話シテ我信切ナルヲ知ラシメテ其信

リナラサルヲ之ニ納得ヤシメ又彼等ヲシテ  
非常ニ安心セシメタルハ幸ト謂フベシ右等  
ノ事ヲ言畢テ後ニ之ニ願ヒタル趣キハ其領  
地ニアル海岸ヲ測量シタキ事并ニ其人民ニ  
布告シテ我等ノ敵對ヲ好マサル事ヲ知ラシメ  
又我カ船ト人ノ南灣并ニチエイラツク河ノ  
中ニアル間ハ炮突スベカラサル様布告スベキ  
旨ヲ頼ミシニ彼レ答テ云ク其ニ其人民ニ於  
テハ日本人ノ船ニ駕シ何処ニ到ルモ差支ナシ  
依ニ恐ル、ト云レト但シ極南ノ人種ハ極メテ



猛惡ル人民トレバ日本人モ其地ニ船ヲ上  
ケ或ハ其地ヲ徘徊スルトキハ彼レ炮發スルモ  
測ルベカラアモシ然ラントキハ~~エ~~エ~~ミ~~エ~~ツ~~ツク罪  
トナルヲ以テ決シテ上陸セサラン~~ト~~ト~~ク~~ク望メリ  
依テ是事ヲ猶ホ通ラサルヲ可トシ之ヲ止メ  
テ後日勦考ノタメニ殘シオキタリ備テ彼等  
ハカ子テ~~畫~~畫飯ノ用意ヲナシ我等ヲ招キ且ツ  
自身ハ我等ノ食スル間別間ニ退キテ食ヲ  
取ラン~~ト~~ト~~ク~~ク懇ロニ願ヒシカ我レヨリ共ニ  
食セン~~ト~~ト~~ク~~ク勸メテ遂ニ安心シテ會食シタリ

食事終テ予言テ曰ク我前途尚ホ遠シ和  
親ヲ固~~フ~~フスルタメニ一杯ヲ傾ケテ相別  
ルヘシト~~エ~~エ~~ミ~~エ~~ツ~~ツク答テ曰ク是レ亦予カ  
願~~フ~~フ所ナリト而シテ我カ彼ノ親友ニシテ  
敵ニアラサルヲ信シタリ此ヲ立テ去ル  
ノ時海軍總督赤松我ニ言テ曰ク我カ信  
任ノ證拠トメ酋長ニ物ヲ贈ラントス依  
テ同行中ニ持チ合ハスル~~ト~~ト~~ク~~クグリーチ、ロー  
チングト云フ施條砲ニ悉ク粧飾ヲ添ヘテ  
贈ルバシト是ハ固トヨリ酋長ノ好ム所ナ

レハ予直チ、總督ノ命ニ從ヒ其鉄砲  
ヲ贈リタリ、酋長我ニ言テ曰ク途中  
マテ護送兵ヲ送ラント言シカ余輩路  
ヲ知リテ聊カ恐ルヘキ所ナケレハ之  
レニ及ハザレ音ヲ申シ送レリ又一事  
尤モ驚クベキ事アリ是ハ酋長ノ閣下  
ヲ信スル様子ナリ酋長最初我ニ言フ  
ニ閣下ノ遠征ノ事ニ預タルト云フハ  
全ク信シ難ク只予カ信ヲ取ランガッ  
メニ閣下ノ名ヲ用フルモノト思フト云ヘ

リ依ニ彼ヲ招キ陣營ニ至ラシメントス  
レハ彼レ答テ曰フ未タ信シテ来リカタ  
シ但シ閣下<sup>貴</sup>来ラハ就ハ<sup>テ</sup>恐ナクシテ来  
ルベシト予彼レニ告テ曰フ閣下ノ到着  
次第其趣キヲ通達スベシ又閣下ノ到着モ  
必ラス近キニアルベシト而メ相別レテ陣  
營ニ歸リタリ

爾後二三日亦過キテ海軍總督赤松子イシユ  
号ニ<sup>頼</sup>リテ南<sup>ノ</sup>海灣兵ニ東海岸ノ南部ノ中  
チエーラツツ、河河下ニ当ルトコロニ進

シニ其船到ルルコトヲ知リエツト種族笑ニリニワンス  
種族ヨリ炮發シレリアンキアン灣ニ歸リテ其  
犯罪ノ人民ヲ罰スルニトテ我レニ相談アリ子  
イシエー号ヲ以テリンワンス種族ヲ撃チ又  
一時ニシヤリマヲヨリ兵ヲ出タシテコアリエツ  
ト村ヲ側面ヨリ取リ同時ニ西地ヲ破ラントス  
是ハ極メテ為シ易キ事ニシテ上策ナレ氏如此更  
ヲ為スニ太夕早キトキハ近頃エヒエラクト面談ノ甲  
斐モナシト思ヒタレハ總督ニ勸メテ其事ヲ止メシ  
メタリ然ルニコトニ一害アリテ之ヲ防クノ術ヲ知ラ

モ諸士官等其隊ノ者ヲ制セサルト見ヘテ余ノ  
言絶ヘテ其甲斐ナク十七日ニ少許ノ人数法  
畏レズニボシタシ村落ノ方ヲ指シテ出掛ケ其  
帰路ヲ敵ニ要セラレ我兵一人殺サレタリ其屍  
ハ取戻セシガ首ハボシタシ人ノ風習トシテ奪  
去シリ是レ元來右ノ人数ハ或人ノ見込ニテ本  
營ノ前二里許離レテ据ヘタル一分營ヨリ出掛  
ケル者ニシテ右ノ事起テ余始メテ之ヲ聞  
ケルナリ余ハ元來此前營ヲ分チ置クコトヲ失策  
ト思フタリシ故其ノ致ヲ引揚クヘキ旨ヲ議セ

ニカハ其議ノ如ク  
キヲ以テ二十一日ニ又十二人ノ一組ヲ受ケ  
テカ受ケス  
テカ余ハ  
人ノ殺サレタル同場所ニテ同様ニ三十人許ノ  
土蠻ニ襲撃セ  
接兵トシテ二  
敵二人ヲ殺シ一人ヲ傷ツケタリ右援兵ノ近寄  
ヲ見テ土蠻ハ固ヨリ遁逃シ我兵無事ナリシカ  
ボニタシ人必ス夜中或ハ拂曉ニ歸リ来ルヘシ  
之ヲ待受ケントテ其夜一  
コムペニ一止リテ其

ハ是ハ別事ニアラズ士官兵卒免許  
ナクシテ小郡ヲナシテ内地ニ進ム事  
ナリ但シコハニ免許ナシト云フト虫ド  
モ其進入多クハ指揮スル士官ノ命ヲ  
受ケテ然ル後ニ行フニ必セリ  
始メテ聞キタルハ士官六名同行シテ  
國ノ南部ニ進入シ南灣マテモ到リシ  
ニ遂ニ近所ニアル  
テ止マリタリ其半種者曰クモシ更ニ  
遠ク東方ニ進ムトキハコアリユツト人

人種必ラズ攻メ来ルベシト云  
ヘリ又予カ恐ルハ所ハモシ南  
方ニ在ケル土人ト相觸ルハ一  
アラハ且シユツクトツク其  
其外凡テ近ゴロ和親スル人民  
トノ交際ニ大害アリト思フタ  
ルニ因リ是ニ於テ此ノ如キ  
一所業ハ以後為スベカラスト  
余以テ告ケ置キテレト

地ニ露宿シタリ抑此地ハ日本人少シモ知ラサ  
レトモ石門トイヒテボンタ部ニ入ルノ要索  
堅固ナル絶處ノ直外ニシテ余ハ案内者ミアキ  
イシノ西人ヨリ聞キ早ク之ヲ知リ且ツボンタ  
シ人若ク築キ此地ヲ守ラント謀ヲ決セシ事ヲ  
モ聞知シタル故一戦畧ヲ考ヘタリボンタ人  
愈此策ニ出ツルナラハ其種族ノ兵カヲ此ニ集  
ムルヲ必セリ余既ニホシニ及ビボンタ近  
邊ノ處マヨリ来リタル人ニ就テ聞知シタル道  
アレハ游兵ヲ石門張リボタ人ヲ此谷ニ

誘引シテ騎兵ヲ以、ホントニヨリ進マシムレ  
ハ一夜ニシニ其後ニ出ツヘシ左スレハホニタ  
ニ人ハ我手ノ物籠中ニ為ニシテ遁逃スヘキ  
路ナク盡ク之ヲ護ヘキヲ必セリ然ルニ彼石門  
前ニ露宿シタルコトハ一隊廿二日ノ朝兼テ  
命セラレタル如ク直ニ退カスシテ却テ石門中  
へ進ミ掛ケ土蕃ノ兵ニ出遇ヒ二時間割戦シ之  
ヲ退ケ十五人ヲ殺シ三十八人ヲ傷ツケ我兵モ  
死人<sup>者</sup>六人傷者十人或ハ十五人トモイフ之ヲ聞  
キニ時余ノ憤懣如何ニヤ加之我兵敵ノ首十二

級ヲ切テ陣營ニ帰リタルニ此村ノ支那人等皆  
ボニタン部ノ首首アロクノ首級全ク其中ニス  
リト云ヘリ嗟日本人彼怖ヒキ野蠻ノ風ニ從ヒ  
死者及ヒ傷ツキテ未タ死セザル者ノ首ヲ切リ  
分取トシ敵ノ兵器裝束ヲ禿取シ持帰レリ此戦  
ハ固ヨリ勝利ヲ得タルナレトモボニタン人ヲ  
一挙網羅スヘキノ策之カ為ニ破レケレハ得失  
相償フニ足ラサルナリ此亦松命ヲ待タスニ  
テ事ヲ為シタル者ヲ論シ全隊ニ令シテ直ニ此  
地ヲ退カシメ以テ人ノ策ヲ道行ハルニ様ニ為

サント云セケレト 後々此ノ如キノ機アルヤ  
否期ニ難シ余惟ノニ兵卒此ノ如ク血氣ニ猛ル  
ノ時ニ當テ進撃セサルヘノラス否ラサレハ事  
ナキヲ不足ニ思ヒ必ス忽マキ事ヲ企テ之カ為  
ニ患害ヲ起サモ計ラレサレハ余ヨリ大将西  
郷ニ説キテ沈靜ニ事ヲ為スヘクセヨト貴君ハ  
言ハルレトモ余惟フニ貴君若シ此ニアラハ必  
ス自ラ此策ヲ用ヒラルヘケレトモ兵卒ノ意ニ  
満テニカ為ニ余暫ク之ヲ言フヲ猶豫ニテ他  
日貴君ノ余ニ教示セニル、カ如ク為ニ得ント

欲スル為メ余ハ大将西郷ニ告クルニ若シ兵卒  
沈靜ニテ居リ得ルナラハ固ヨリ貴君ノ教示  
如クスルノ最良ナレトモ若シ兵ヲ用フルナレ  
ハ余ノ言フ如ク為サ、ルヘカラサルヲ以テセ  
ント欲ス  
大将西郷ノ著シタル其日ビバ及ヒバババババク  
スナヲシテ慚悔セシムハキ一大重事アリタリ  
是他ナシ支那ノ大軍艦一艘外ニゴンボート小  
船一艘ヲ卒卒ヒ来リテ大将西郷ニ福建總督ヨ  
リノ礼辞ヲ傳ヘタ 翌日其船出發前ニ日本ノ

國旗ニ對シ祝砲ヲ發シテ洋中ニ馳セ去レリ請  
フ此事ヲ國中ニ布告シ我友ノ<sup>レ</sup>及ヒ<sup>レ</sup>ノ<sup>レ</sup>虚言  
者ナル<sup>レ</sup>ヲ衆人ニ示サレヨ此書ハ<sup>レ</sup>デル<sup>レ</sup>夕船明  
朝出帆ノ期ニ後レサランカ為ニ忽々ニ筆ヲ執  
ルヲ以テ誤謬ニ正スニ暇ナク疎略ヲ極ム希ク  
ハ恕セヨ

尚一事アリ尤モ重要ノ者トス一昨日案内者<sup>ミ</sup>  
<sup>ア</sup>エシユックヨリノ使ノ趣ヲ以テ余ノ處ニ來リ  
<sup>エ</sup>シユックノ北牛ニ足豚數足雞數羽ヲ余ニ贈ラ  
ントスル旨ヲ告ケタリ然直ニ余贈<sup>ル</sup>物ノ<sup>レ</sup>方ヨ

リ信スレ<sup>レ</sup>ト彼等ノ方ヨリ我ヲ信セサル人民ヨ  
リ贈物ヲ受ル能ハスト答ヘ<sup>リ</sup>  
余ハ彼ノ陣營ニ來見セシ<sup>レ</sup>ヲ願ヘリ是レ彼ヲ  
大将ニ謁見セシメシカ為メナリ大将既ニ到着  
有<sup>リ</sup>テ彼ニ贈ラントテ數多ノ贈物ヲ用意セリ  
是レハ曩キニ尊君ヨリ彼カ事ヲ云送リタルニ  
依テナリ余亦使者ニ任カセ難キ種々ノ事件ヲ  
彼ニ面談セシ<sup>レ</sup>ヲ願ヘリ又彼ハ余輩ト友親ヲ  
結<sup>ブ</sup>前ニ先ツ其言ニ於テ信用ヲ表ス可<sup>ク</sup>ナ<sup>リ</sup>ヲ  
願ヘリ案内者<sup>ミ</sup> <sup>ア</sup>ヤ<sup>リ</sup> 帛<sup>ヲ</sup>來<sup>レ</sup>シ時余ニ告ケテ



正ニユツク既ニ余カ  
ナルヲ承知セシノミナラス公然宣言シ余ヲ  
信任ニテ未ク嘗テ為サリシトテ為ス可キ由  
ヲ云ヒタリ因テ決定トナリタリト云ヘリ然レ  
トモトクイトクノ嗣子幼首長及ヒ近隣部落ノ  
三首長ハ次夜(即今夜ナリ)ニヤリア<sup>ル</sup>村落ニ  
在ルミ<sup>ヤ</sup>ノ家ニ彼ニ同伴ニテ来リ大将及余等  
ニ會ヒテ友親ヲ取結フナル可シ  
目今好機會ニ乗シ速カニ此處ニ降臨有リテ尊  
君ノ方略ヲ施行成就ヤラル可シ一瞬間時ヲ失

フ可カラス

今晚差掛リタル會見ノ様子ハ早速書記ニテ尊  
君ニ贈ル可シ若シ然ラサルモ余輩既ニ此人民  
等ト眞実ノ友親ヲ結成セシト御推察可被下  
候

首申ニ上度事モ寸暇ヲ得サレハ記載スル能ハ  
ハ是迄ニテ筆ヲ止メ申候

ドラグラス、カッセル

シヤニキヤハ谷中ノ陣所ヨリ

五月二十六日

大将閣下ニ申ス

幸ニシテテルル号少ク延引セシ故ニ余昨夜

ニエツトクイトクノ嗣子他ノ小酋長二名及

就中最要紧ナルハコアロフト種族ノ酋長ト云

見セシ事件ヲ尊君ニ申呈スルヲ得タリ余カ既

ニ云ヘル如ク此輩ハ余輩ニ其服従ノ盟若クハ

友親ノ情ヲ表ヤンヲ為メニ来リシナリ余曩ニ

大将ニ呈書シテ兵士七時後ハ河ノ南方ニ行ク

ヲ許ルヤ、ル命令ヲ下サン、テ清ヘリ是ハ土  
人ニ出逢ハ、無益ニ之ヲ驚愕セシメテ再ヒ山  
中ニ逃入ルノ懼有レハナリ此命令施行有リ斯  
クテ時間余程過タリシカハ頗ル心配シ居リシ  
・九時頃ニ至リテ案内者入り来リ諸酋長既ニ  
~~シ~~ノ家ニ来リ諸君ヲ待受居レリト告タリシ  
カハ甚タ喜ビタリ酋長等ハ大勢ノ從者ヲ連来  
リシカ村落ノ外半英里許ニ殘シ止メテ唯五人  
ノ酋長ノミ入来レリ余ヲ信任スルノ深キ故ナ  
リ余直チニ大將ヲ召ビ之ニ隨伴シ水師提督赤

松將軍タイ子、ナツソウブラサン、ハウス及ビ  
澤司西三人ト共ニ二三百ヤルドノ距離ヲ村落  
ノ方へ出張セリ大將ヨリ又命令有リテ極メテ  
美麗ナル贈物ノ大ナル行李ヲ持来ラシメ会见  
終リテ之ヲ諸酋長ニ贈リタリシ、~~ハ~~ノ家ノ庭上  
入りタルニ甚タ立派ニ燈燭ヲ點シ有リテ諸  
酋長共ニ椅子ニ坐シ全然兵器ヲモ持セス居レ  
リ直チニ坐ヲ離レテ通例ノ如ク喧雜ノ事無ク  
恭黙シテ立チ彼等ノ手ヲ連結シテ大將及ビ余  
ヲ礼セリ是蓋シ案内者ヨリ彼等ニ教ハタルナル

可シ余ヨビエツウニ依テ左ノ事ヲ云ヘリ此島ニ  
来リシ諸兵士ノ総大将ノ面前へ此人ヲ招納セ  
シハ甚ク幸福ナリト思ヒ且大将今夜此所ニ来リ  
諸酋長ノ友親信實ノ意ヲ表セシヲ見テ甚ク喜ビ  
タル由ヲ云ヘルヲ告ケタリシニ~~ト~~語ヲ通  
ナル者ニテ是ニ答テ云ク吾ハ公等ヲ信用セリ此故ニ公等  
カ請フニ任カセテ友親ヲ表スル此小ノ贈物ヲ持来レタリト云タリ  
此時余左ノ事ヲ云ヘリ爰ニ余輩カ此仕方ニテ彼ニ面会  
スルヲ喜フ他ノ事故有リ就中余輩ノ自身ヲ以テ  
スルニ非レハ使者ニ任スルヲ欲セサル他ノ事故有リ

余曰ク汝等君民及ヒ總テ南方諸部落中汝ニリ  
其異心ナキヲ担保スル者ハ皆我カ友國ト爲シ  
之ニ害ヲ加ヘザルノミナラズ我レ之ヲ助ケテ  
他ノ敵ノ害ヲ防クベシ然レヒ茲ニ我レト深仇  
アリテ我曹誓テ一人ヲ遺サス殄絶セント欲ス  
レニ部落アリ是レ牡丹人種ト之ヲ助ケタルキユ  
ニキユト人種ト一ノ此民ノ我手ニ屠戮セラレ  
終ニ~~子~~遺ナカラシムハ其誤タザルヲ警ヘバ太  
陽ノ東ニ出テ西ニ没スルガ如シ然ルニ或ハ聞  
ク~~ラ~~バ~~リ~~及~~テ~~ニイルラソク人種等其他南方部

落ノ中番カニ山路ヲ違リ陰ニ此残暴兇惡ナル  
牡丹人ヲ助クル者アリト因テ汝ニ告ク若シ真  
ニ此事アラハ嚴罰必ラス汝等君民ニ及ブベシ  
又我兵牡丹人種ニ刺スルニ及テ其民遁レテ汝  
ガ境土ニ入り我ガ南方諸部落ニ與ヘタル守護  
ノ下ニ其身ヲ隱サントスル者アル可シ然レド  
モ汝必ラスカラ盡シテ之ヲ拒ミ特ニ之ヲ隱匿  
セザル者ノミナラズ之ヲ知ラハ其人ヲ捕ヘ其  
手足ヲ縛シテ我ニ交附スベシトエシユツク之ニ  
答テ曰ク牡丹人種及キユシユキツト人種ノ兇惡ナ

ルナハ我曹ノ熟知スル所ニシテ貴君ノ言一々  
皆理アリ我民ヲシテ必ラス貴國ノ威ヲ冒ス如  
キ愚ヲ為サシメズ若シ牡丹キユシユキツトノ民敢  
テ我境土ヲ踐マント欲スル者アラバ必ラス之  
ヲ捕ヘテ我カ貳心ナキラ示ス可シト  
彼レ又曰ク我ニ屬スル一村貴軍ノ牡丹國ニ向  
ハシトスル途上ニ在ル者アリ我レ其民ノ誤テ  
敵トセラレ不虞ノ害ニ罹ラシテ恐ル其良民々  
ルハ我レ固ク之ヲ保スルヲ以テ願クハ貴軍ノ  
之ヲ庇護セシメテ請フト我答テ曰ク曩キニ我

兵之ヲ以テ牡丹人ノ同盟ナリトセリ故ニ可  
ノ役既ニ之ヲ苦シム然レモ汝躬カラ其良民々  
ルヲ保セハ我レ汝ガ辞ヲ証トシ今ヨリ之ヲ害  
スルコトナカル可ト

余又言ント欲スル一事アリ遂ニ之ヲ彼レニ告  
ク其事ハ左ノ如ク曰ク前日我船海岸ノ模様ヲ  
探リ且ツ土人ト好ヲ結ハシ為メ南灣ニ至リ夕  
ルニコアリユツト及リュイグワニ人種等我船ニ向  
テ発砲シタリ是レ我レニ友情ナキミナラズ  
民チ兵端ヲ挑ム者ニメ我レ決シテ此ノ如キ徒

ニ寛假セズ再ビ此ノ如キコトアルカ或ハ速カニ  
来テ罪ヲ謝スルニ非サレバ我レ之ヲ殲シテ遺  
類ナカラシメント初メ全此家ニ入ルニ當リコ  
アリユツトノ事ニ就テ問フコトアリシニエシユツク  
答テコアリユツト酋長ハ今日来謁セズ彼レ固ニ  
リ異心ナシト雖モ恐レテ余ト共ニ来ルコトヲ辞  
セリト云ヘリ然レモ余右ノ事ヲ告ルニ及テク  
シユツク急ニ其次席ノ人ヲ指サシ答テ曰ク今日  
コアリユツト酋長實ニ席ニ在リ前日ノ放火ハ全ク  
誤ニ出テタルコトニシテ當日村内ノ児童鳥ヲ觀

射シテ為マ所ナリト此辨解実ニ不都合ノ辨解  
ナレト余敢テ之ヲ詰ラズ又言テ曰ク何レノ民  
ニテモ汝其異心ナキヲ你セバ余ハ復タ之ヲ問  
ハズ然レトコアリユツトノ民ヲ庇護シ之ト好ヲ  
奇スルニ先テ彼レニ請フヘキ一事アリ琅瑤灣  
ハ時アリテ風浪高起シ我兵上陸散歩シ或ハ薪  
水ヲ求ムルニ便ナラズ因テ別所ニ於テ此ノ如  
キ一地ヲ得ント欲ス然ルニ東岸中稍チユイルラ  
ソックノ下方ニ當リ曩日我船ノ放火シラレタル  
地ニ於テ好澳脚アリ我以此地ニ就キ土人ノ價ニ從

テ一<sup>ト</sup>小土ヲ買ヒ我カ月ニ供クント欲ストエシ  
ツク之ニ答テ曰ク我曹今貴國ト親愛ヲ結フ  
以上ハ貴軍島ノ南方ニ於テ何ノ地ニ上陸  
スルモ決シテ危害ナシ然レト彼ノ地ハチユ  
イルラソックニ屬シ而シテ薪水ノ事ニ於テ  
ハ我等既ニ彼酋長ト熟談シタリ故ニ貴  
軍唯薪水ヲ求ルノミニ於テハ南方諸港  
中何レニ上陸スルモ曾テ差支ナシ若シ  
敢テ貴軍ニ向ヒ發砲スル者アラハ我レ  
貴軍ヲ先導シテ其村ニ至リ貴軍ヲ助ケ

テ之ヲ剽盡スヘシト余諸酋長ノ地ヲ賣ル  
ルシ拒ム意アリテ其議ノ直チニ成ラザ  
ルヲ視ル故ニ又答テ曰ク今日ノ會百事  
實ニ満足ナリ汝等歸途皆遠ケレハ長ク  
拘留ス可カラス快ヨク一杯ヲ飲テ友情  
ヲ訂シ我總督ノ親愛ヲ表シテ贈レル諸品  
ヲ受ケテ今日ハ速カニ歸去スヘシ然レモ汝等耶  
朝迄留ラント欲セハ將軍汝等ニ陳營兵卒ノ操練大  
砲其他珍奇ノ物ヲ示ス可シトエシユツク之ニ答テ曰ク已ハ  
大ニ之ヲ欲スレバ人民其歸ヲ待ツヲ以テ再々白日陳營來時頃

此時贈物ヲ出シテ分配シユツクニハ他物  
中殊ニ極テ羨望ナル日本カヲ與ヘ慰撫シテ後  
余輩ハ別レテ陣營ニ歸ヒリ猶遺漏マル一事ア  
リ茲ニ之ヲ言ハン余將軍ノ記名上ニ文字ヲ書  
シタル日本旗章ヲ忠實ナル各村ニ與ヘント約  
シ其旗ヲ飄カヘセル村落ハ我保護ノ下ニ在リテ日  
本兵卒行軍ノ時之ニ依テ我朋友タルヲ知ルヘキコトヲ  
説示セリ諸酋長就中エシユツク喜テ其意ヲ了シ  
直チニ旗章ヲ得ント欲シエシユツクハ十六流ヲ乞ヒ  
各社ニ一流ヲ與ヘエシユツク其責ニ任ス可シ



ト言ヒ又各社人民旗章ヲ得ハ十分一保  
護ヲ受ケタリト思想スルノ之ニ過ルモ  
ノ無カル可シト言ヘリ余之ニ答テ曰ク旗章ハ  
未タ備ハラサレテ以テ成就セハ一流ヲエシユ  
ツクニ與ヘ同行ノ首長ニモ各一流ニ與フ可シ  
然レモ他村落旗章ヲ得ント欲セハ先ツ其首  
長ノロクハ頭人エシユツクノ例ニ倣ヒ來テ大將  
軍ニ敬禮ヲ致シ我ヲ真ノ明友ナリト信セシ  
ヲ表セサル可カラストエシユツクニ曰ク彼等  
ハ皆君ノ言ニ從テ訪ヒ來ル可シ今日ニ至レマ

テ彼等ハ恐レテ來ラツリシガ余歸テ聞知セシ  
所ヲ一々説話セハ彼等喜テ訪ヒ來リ親友タル  
ヲ表シ保護ヲ得ント欲ス可シト此高議ヲ為ス  
以前將軍西郷此一件ヲ全ク余ニ任シ便宜ノ計  
ハ一々之ヲ行ハンヲ望ムトテ語り商議中西郷  
及ヒ其他日本高貴ノ官吏ハ坐シテ之ヲ聴キ一  
言ヲ出サス歸後將軍余ノ成シタル事ヲ謝シテ  
其重要ナルヲ稱セリ我將軍ニ告ク今日ニ至ル  
マテ成功セシ所ノ事ハ余カ熱心期望セシ所ニ  
過キタリ唯哀ニ此好機會ニ當テ君ノ此地ニ在

テ其策ヲ施行セザルイラ  
東岸ノ事ニ付キ更ニ數言ヲ述テ結局トス可シ  
余ノ茲ニ來リシヨリ以來此事業ヲ成スニ適セ  
ル船ノ有用ナシミナラス實ニ缺ク可カラサ  
ルイ日ハ一日ヨリ切迫シ手ニ入ルヘキ船ノ中  
ニテ唯「タボル」號ノ用ニ適セルヲ覺ユ成丈ヶ早  
ク「タボル」號ノ此地ニ來ルヲ主張スルイヲ誤ル  
勿レ余カプテイインブラウンニ電信ヲ以テ「タボ  
ル」號成ルベクハ來月中此地ニ達スルヤウ長崎  
ニル君ニ報知スヘキイヲ語レリ余ハ東岸ノ事

業ヲ成スニ「タボル」號ニ缺ク可カラスト思想ス  
勿卒乱筆請フ恕セヨ謹言

ドローグラス、カッセル 記名

